

第20回保育部会研究委員会報告書

浜田市保育連盟会長 煙艸 のぞみ			保育部会長 松浦 清美（やさかこども園）		
開催 日時	令和8年6月22日	開催場所	浜田まちづくり センター キッズルーム	記 録 者	石田 真紀 （くもぎ保育園）
	14：00～16：00				
出席者	みのり第2、おぐに、うみかぜ、浜田ひかり、三隅、やさか、くもぎ			欠席者	なし

競技内容

アンケートの集計、結果からの考察。
アドバイザーの森口達也氏とリモートで打ち合わせを行う。

- 子ども主体に関するアンケート結果について
 - ・調査対象の6園全てが「子ども主体に取り組んでいる」と回答。
（本当にこれでいいのか分からず試行錯誤しながらなところもある）
こどもが安心できる人を選ぶ場面（特定の保育者に抱っこを求める、抱かれると安定する）
年長さんでいつもきてくれる子が来ると喜ぶ）などを具体例として共有する。
 - ・「子どもは自分で食べたい量がわかるか」には賛否あり、「見た目で多く取って食べきれない」ケースが指摘される。
 - ・「心地よい刺激や興味のあるものに反応できると思うか？」「自分に合った遊びを選んでいるか？」では、音楽に合わせて身体を揺らす、友だちの遊ぶ姿を見ていてやってみようとする等の事例があがる。
- これまでのアンケートや事例を基に…
- 『未満児にも主体性があるという理解が深まり、子どもの意思や選択に気づき応答的に対応することが、主体性を育む第一歩である』と合意した。
- （できたできない、合っているかないかなど結果を求めるものではない。）

- 今後のまとめの方向性
 - ・方針：アンケート記録と実践記録を基に、
タイトル「乳児にも『子ども主体』は当てはまるのか」
サブタイトル「自分を出せる環境づくり」でまとめを作成する。
 - ・子どもが「選んでよかった、わかってもらえた」という気持ちになる経験の積み重ねを重視していく。
 - ・実践記録の整理は「人（関わり）」と「環境（空間）」の2軸を中心に、3つの柱（生活とあそび、異年齢児との関わり、子どもの姿からの語り合いからアプローチし、構成する案に合意した。

●発表資料の構成・作成方針

- ・研究発表資料は、保護者や関係者に分かりやすくするため、写真や図を多用し視認性を高める（文字サイズ配慮）。
- ・過去の研究大会冊子形式（導入/背景、目的、戦略、実践、結果、終わり）を参考に、実践パートを3～4章に分けて小グループ（2～3人）で文章・PowerPointを作成し、後で統合する。まず、実践内容の充実を優先する。
- ・7月28日までに、各担当者は自身の担当分野から良い実践事例を1つ選び、可能なら動画も準備する。スライドに写真を示し、成果・課題を発表する形式で行う。

●資料用の写真・動画の収集

- ・「自分を出せる環境」実践できている場面（食事等の選択、遊び・先生や年長児、友だちとの関わりを求める様子・子どもの姿からどのような話し合いが持たれたか等）を各園で1～2点選定する。既存記録を活用し、なければ新規撮影する。

●今後の予定

次回研究委員会：7月28日（火）14：00～

浜田まちづくりセンター キッズルームにて

森口先生と対面での打ち合わせ：10月23日（金）～時間等は調整中。